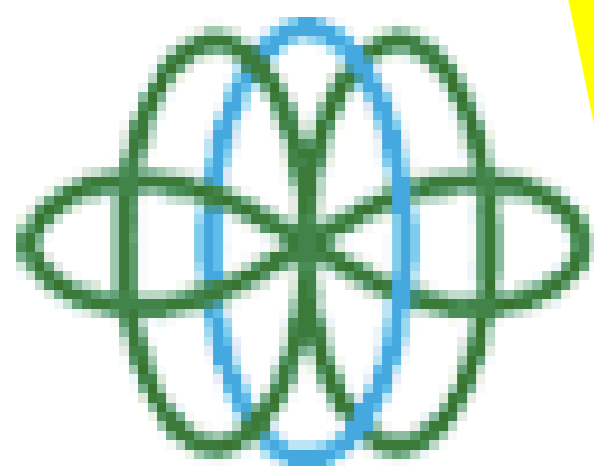


原子燃料サイクル 続けます



日本原燃株式会社

参考資料①

2015年 社長年頭挨拶 (一部)

「各事業」とは
濃縮、埋設、再処理、廃棄物管理、MOX燃料加工

2015年は、当社の各事業を
原子燃料サイクルの確立という大きな使命に向かって、
着実に進展させなければならない年となる。

再処理施設竣工時期延期について

これは**以前の延期**とまったく意味合いが異なる
と考えている。(中略)

現在、時間がかかっているのは、**新規制基準対応**という、
地域の皆さまの安全安心をさらに高めていく
意味のある取り組みの時間である。

原子燃料サイクル事業の在り方の議論について

国の原子力小委員会で議論されており、
2014年12月に中間報告がまとまっています。
(次ページ)

肝心なことは、この**議論の前提**が
原子燃料サイクルをしっかりと進めるということである。
日本原燃の事業がなければ原子力発電の未来はない。

原子燃料サイクルの確立に向けて、
今年も「明るく、楽しく、元気よく、そして安全第一」を合言葉に、
頑張っていこう。



2014年12月 中間整理

参考資料② p.2

「本中間整理は、原子力小委員会において議論してきた内容について、国内外に問題意識を発信し、同時に、政府の具体的な政策立案に活かすために中間的な整理を行ったもの」だそうです

参考資料② p.20

事業者が共同実施してきた**核燃料サイクル事業**について、今後、自由化により事業者間の競争が進み、また**原発依存度が低減**していく中においても、**安定的・効率的な事業実施が確保されるよう**、各事業者からの資金拠出の在り方等を検証し、その検討を踏まえて、**必要な措置を講じていくことが重要**

参考資料② p.25

核燃料サイクル政策の将来的な実現性を高めるため、もんじゅのみならず、(中略)実証段階にある仏国ASTRID炉の**国際協力プロジェクトへの参画等の取組も重要**。

2014年5月の安倍首相訪仏の際にこのASTRID研究開発協力を進めることに合意

参考資料② p.25

もんじゅを含めた核燃料サイクルの研究開発は、放射性廃棄物の減容化・有害度低減や高速炉を含めた**将来のエネルギーオプションを開発していくという目的の下**、**進めていくべき**。

少しだけ感想を

こういった議論の全てのベースに「エネルギー基本計画」が出てきます。でもエネルギー基本計画って閣議決定であって、国会で内容が議論されたわけではないですね。逆に、2012年の民主党政権時代には世論調査等の専門家も交えた「国民的議論」というのをやって、「少なくとも過半の国民は原発に依存しない社会の実現を望んでいる」と分析され2030年代に原発ゼロという方向を選んでいるのです。それを安倍首相は就任早々に「ゼロベースで見直す」と言って完全無視しました。(詳細は本ポスターシリーズ2013年7月26日版をご覧ください 参考資料③)そして出来たのが今の「エネルギー基本計画」。一応「原発依存度を低下させる」と言っていますが、「原発依存度を低下」させることと、核燃料サイクルを続けることとがなぜ両立するのか???全く分かりません。

参考資料

- ①日本原燃株式会社HP 2015年社長年頭挨拶(要旨)
<http://www.jnfl.co.jp/topics/20150105-1.html>
- ②経産省HP 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会-中間整理
http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/denkijigyoku/genshiryoku/report_01.html
- ③私のHP 茶色の朝を迎えないために 官邸前展示ポスターページ
<http://brownmorning.s3-website-ap-northeast-1.amazonaws.com/html/kanteimaedoc.html>